2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)							担当	中嶋
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年/探究		精選文学国語 三省堂		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週		入試漢字2600 筑摩書房		☐ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☐ クリエイティブティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重
				☒ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	『神様』 『ひよこの眼』ほか	表論文の読解を通して、説明方法の特徴を学び、自らの文章作成に活かせるようになる。 小説の読解を通し、表現効果に注意して人物の心情の読み取りをする。 NewsPicksを通して社会課題とのつながりを意識した問いの設定と自分の考えを表現することを試みる。		世界的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン			
				社会	作品に描かれる事柄を実社会との関連で捉え、広い視野で物事を捉えられるようになる。	作品を通して様々なもののがん替え方に触れ、実社会で起こっている問題とつなげて考える。				
				他者	A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表			
2 学期	『想像し物語ること』 『鞆』ほか	自分の読書体験から、「人に勧めたいこの一冊」をプレゼンする。限られた時間内でどれだけその魅力を相手に伝えられるかを1学期の学びを活かして実行する。 評論文読解の力を高めるため、文章構成を意識した読みをする。"		地域的視点	優れた作品に触れ、その感性やことばを選びを知る。	自分の思いや考えを他者と共有し、考えを深めたり、新しい気づきについて考える。				
				点	A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする			
3 学期	『無情ということ』 『檸檬』ほか	自分の感性や感動を限られた文字数で表現すること。人の作品を味わい、その感性に触れる楽しみを味わう。		個人的視点	評論文の構成、表現技法、語彙、漢字について学ぶ。	筆者の主張を捉え、なぜその表現を使っているのか、言葉にこめられた意識を想像する。その過程で様々な表現の可能性を探る。	問いに対しての自分の考えを言語化し、他者と共有できる。それらをプレゼンテーションし、相互評価できる。			
					関わり Engage	探究 Investigate	行動 Act			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
小説は何のためになるかを考える		NewsPicksのコメント欄に自身の考えを400字程度で論じる。		知識・技能	●単元テスト(30%) ●小テスト・授業課題等学習の進捗状況(20%)	●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(50%)	<教材> 教科書、iPad <ICT> NewsPicks、keynote ほか <備考> 必要に応じて書籍・web動画等を参考・活用する			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		NewsPicksのコメント機能、プリント利用した課題への取		主体的に学習に取り組む態度						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)						担当	西村		
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー							
高校2年/探究進学コース		古典探究		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation			
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機	
2時間/週		大修館書店『精選古典探究』		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向	
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重	
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☐ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☐ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)							
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・古典常識 ・古典文法(用言) ・枕草子 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を探究するために必要な古典の常識や文法(用言)を学び直し、知識・技能を身につける。 ・古典常識や語句の意味に問いを立て、グループないし個人で探究し、自らの考えを表現できる。 ・随筆を読み、当時の生活や価値観、文化に触れることで古典に親しむとともに、「古典」を学ぶ意義を考える。 	世界的視点 社会 地域的視点 他者 個人的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン	古典作品にあらわれる文化や価値観を学び、現代との共通点、相違点について、他者に伝えることができる。 古典作品にあらわれる人間の生き方を学び、現代にどうつながっているか自分の意見を持ち、他者に伝えることができる。				
				A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表	古典作品を読むことを通し、人間の生き方や価値観について気づくことができる。 グループワークを行い、自分の問いや解釈を共有できる。お互いの考えを擦り合わせながら、納得解や最適解のための対話ができる。				
				A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする	基本的な文法事項について理解できている。 古文・漢文を読むための基本的なスキルが身についている。 他者の意見と自分の意見を比較しながら、自己評価することができる。 チーム内で修正しながらより良い発表に向けて協力できる。学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・更級日記 ・大鏡 ・方丈記 ・和歌 ・古典文法(助動詞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を探究するために必要な古典文法(助動詞/助詞)を学び、知識・技能を身につける。 ・古典文学にあらわれる人間の生き方、考え方を学ぶとともに、自分ごと化して思考を巡らして、自身の考えを表現する。 ・和歌の形式を理解し、その代表的作品を読み味わうことでものの見方・感じ方を広げるとともに、自ら短歌を創作する。 									
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文 	<ul style="list-style-type: none"> ・格言や短い漢文を読み、漢文の世界に親しむ。 ・故事成語の由来や意味と、現代の言葉へのつながりを理解する。 ・漢文に描かれている登場人物の言動・心情・生き方を学ぶとともに、自己の生き方について内省し、自身の考えを表現する。 									
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能			評価方法			学びのリソース(教材・ICT)	
<ul style="list-style-type: none"> ・古典を学ぶ意義とは ・古典から現代までのコンテキスト(を導き出す) 		<ul style="list-style-type: none"> ・古典の常識(五節句)や語句の探究(グループ/個人活動) ・古典文学を自分ごと化(内省)して思考を巡らし現代文学として表現する 		<ul style="list-style-type: none"> ●単元テスト ●小テスト ●授業プリントなど学習の進捗状況 (50%) 			<ul style="list-style-type: none"> ●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度 (50%) 			【教材】いづな書店『古文単語330』、桐原書店『基礎から学ぶ解析古典文法』、桐原書店『基礎から学ぶ解析古典文法 演習ノート』、浜島書店『最新国語便覧』、プリントなど 【ICT】教科サイト、ロイノート、GoogleClassroomなど 【備考】必要に応じてWeb動画、Webソフトを活用する	
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		Googleclassroom(予定の確認) ロイノート(進捗課題および作品の共有)		主体的に学習に取り組む態度							

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan (年間シラバス)						担当	片岡鉄平	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年全コース		歴史総合		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週		「わたしたちの歴史 日本から世界へ」 山川出版		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☐ クリエイティブティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重
				☒ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☐ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	・近代化と私たち	・近世から近代のアジアと西洋の関係を通じて、近代化について考える。 ・市民革命を通じて、現代の世界への影響や現代に繋がる問題を考える。 ・日本の近代化の歩みを考察することで、現代に繋がる問題について考える。		世界的視点 社会	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン			
			現在起きている問題と歴史的事象との関連を考える。		歴史を学ぶことで、現代社会の問題の原因を考える。	歴史を学ぶことで、世界中どここの文化も理解できる寛容な人間を育てる。				
	2 学期	・国際秩序の変化や大衆化と私たち	・現代に繋がる大衆運動や国際秩序を通じて、現代の諸問題の根源は何であったのか考える。 ・国際秩序の変化や両大戦に繋がる動きを考察することで、現代社会の諸問題に対して、我々はこのどのような判断をしなければならないのか考える。		地域的視点 他者	A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表		
			画像データを利用して提示する。 資料(史料)から情報を読み取る力を養う。	学習した内容を自分の言葉としてアウトプットし、疑問など新たな学びにつなげることができる。						
3 学期	・2学期と同じ	・2学期と同じ。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする			
			教科書の内容を基本にして、教科書に書かれている知識を用いて考えることができるようにする。		疑問から、話を広げて、共有化する。	グループワークで調べた内容を発表し、共有する。				
					関わり Engage	探究 Investigate	行動 Act			
					評価方法			学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●アウトプット型テスト ●問題ノート	●創作活動 ●授業まとめ	【教材】 iPad 『歴史総合資料集』山川出版社 『わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート』山川出版社 【ICT】 Google classroom ロイロノート 【備考】 必要に応じて Web動画や録画した番組の視聴、Webソフトを活用する。			
日本史と世界史を関連付けながら、過去と現代との繋がりを意識し、歴史を考える力、現代社会を生きる力を養う。		授業で学んだこと、自分で勉強した知識をもとに、自分の意見を発信する。 ・ディベートを通じて発信力を身につける。 ・グループワークを通じて自分の考えを構築する。								思考力・判断力・表現力
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		Google classroom ロイロノート(アナログの提出物は全てデータ化して提出)		主体的に学習に取り組む態度						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)						担当	山崎	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年探究進学コース		数学Ⅱ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
4時間/週		数研出版 数学Ⅱ		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	・図形と方程式 ・三角関数	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・数学的なグラフと処理の関係を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン			
			実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。							
				A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表				
2 学期	・指数関数・対数関数 ・微分と積分 ・極限(数Ⅲ)	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・数学的なグラフと処理の関係を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・種々の関数の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		他者・地域的視点	日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。	日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。				
3 学期	・微分法(数Ⅲ)	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		個人的視点	A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする			
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。	手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。	学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。			
					関わり Engage	探究 Investigate	行動 Act			
					評価方法			学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(40%) ●Checkテスト(10%)	●創作活動(40%) -協働や相互評価 -発表または共有、成果物 -活動の貢献度	【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学Ⅱ+BC 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する			
・音楽と数学の関係は何か		・実社会の数学的な事象に対して考察し、動画などでまとめることができる								思考力・判断力・表現力
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)							担当	芥	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー							
高校2年探究進学コース		数学B		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation			
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機	
2時間/週		数研出版 数学B		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向	
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重	
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)							
1 学期	・数列	<ul style="list-style-type: none"> 単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 数列の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。 		世界の視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン				
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。						
					A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表				
2 学期	・確率分布と統計的な推測 ・ベクトル(数C)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 確率分布の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。 		他者・地域の視点	日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。				
					学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。						
3 学期	・2次曲線(数C)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。 		個人的視点	A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする				
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。						
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		評価方法			学びのリソース(教材・ICT)				
・自然と数学の関係は何か		・自然界の事象を数学的に捉えて考察し、資料などでまとめることができる		知識・技能	●単元テスト(50%)		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況(50%)		【教材】 ・授業プリント ・問題集クリアー数学II+BC 【ICT】 ・教科サイトおよびiPad Appなど 【備考】 必要に応じて Web動画、Webソフトを活用する		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Seesaw(進捗課題および作品共有、予定の確認)ほか		主体的に学習に取り組む態度							

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)						担当			
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー							
高校2年探求進学コース		物理基礎		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation			
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機	
2時間/週		東京書籍 新編物理基礎		☐ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☐ 協働性	☐ データサイエンス	☐ クリエイティブティ	未来志向	
				☐ 可能性発見	☐ 自己修正	☐ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャリティ	☐ 批判的思考	☐ 論理的表現力	他者尊重	
				☐ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☐ 感情のコントロール	☐ 教科と社会を紐づける力	☐ 情報リテラシー	☐ <倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認	
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)							
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな物理現象とエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱、音、電気 	社会的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン	物理法則や現象が、日常生活や社会にどのように関わり、用いられているか気づく。	物理学の基本的な概念や原理・法則が実社会でどのように利用されているか疑問を持ち検証する。	物理法則や現象を応用し日常生活に活用するためのアイデアを提案できる。		
				A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表	観察、実験などを行い、その結果を分析できる。	物理現象やその規則性、関係性についての仮説を立て、意見交換し、その検証の方法を考えることができる。	自らの学びの成果を学外に発信する。		
				A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする	観察、実験などの記法操作や記録といった基本的な技能を身につけている。	物理法則や現象について、その観察や実験から規則性や関係性について疑問を見出すことができる。	学習した成果をまとめ、プレゼンテーションのおよび相互評価することができる。		
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動とエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気エネルギーとその利用 ・直線運動の世界 	他者・地域的視点	関わり Engage			探究 Investigate		行動 Act		
				知識・技能			●単元テスト ●アウトプット型テスト		●創作活動 ●プレゼンテーション ●提出物		【【教材】 ・事業プリント ・ワークシート(含むコピー) 【ICT】 ・教科サイト ・ロイロスクールノート 【備考】
				思考力・判断力・表現力							
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな物理現象とエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・力と運動の法則 ・力学的エネルギー 	個人的視点	主体的に学習に取り組む態度							
				ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head			<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリント(手書き記入) ・ロイロノートによる画像、動画、スライド 				
				本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart			創造的な活動およびアウトプットの例 Hands				
<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物理現象を発見し、説明してみよう 		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で見つけた物理現象やその利用方法について 									

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)						担当	木村				
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー									
高校2年/全コース/科人①クラス		科学と人間生活		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation					
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機			
2時間/週		東京書籍 科学と人間生活		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向			
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャルリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重			
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認			
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)									
1 学期	1編 生命の科学 2編 物質の科学	1編 1章:微生物とその利用 2章:ヒトの生命現象 2編 1章:材料とその再利用 2章:衣料と食品	社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン	実社会において科学が活用されている製品について知ることができる。				実社会にある科学に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。	持続可能な社会に向けて、学びを活用できる作品を作り、広めることができる。	
	2 学期	3編 光や熱の科学 4編 宇宙や地球の科学		3編 1章:光の性質とその利用 2章:熱の性質とその利用 4編 1章:太陽と地球 2章:自然景観と自然災害	A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表	日常の事象から物質との関連を発見し、課題を解決することができる。				対話により新たな問いを見出し、解決に向けて探求することができる。	学びの成果を学校外の誰かに発信できる。
		5編 課題研究		自由テーマ研究	個人的視点	A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする	理科の4分野についての本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。また正しい実験技能を身に着けることができる。				実験手法や操作手順等、他者と意見が異なる際には相互理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。
3 学期			関わり Engage			探究 Investigate		行動 Act					
				評価方法			学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●チェックテスト ●ワークシート	●創作活動 ●レポート ●授業態度 ●提出物 ●ワークシート	<教材> 教科書・授業プリント・Think and Quest ワークシート・iPad など						
科学的に「美しい」とは？		単元の内容について「なぜだろう？」を考えるきっかけを意識して、専門用語を用いながら、筋道を立てて言語化できるようにする。									【50%】	【50%】	<ICT> Googleドキュメント、Googleスライド、keynote など
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ワークシート(手書き記入) リフレクションレポート		主体的に学習に取り組む態度			<備考>						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan (年間シラバス)						担当	椿	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年/全コース/科人②クラス		科学と人間生活		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週		東京書籍 科学と人間生活		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	1編 生命の科学 2編 物質の科学	1編 1章:微生物とその利用 2章:ヒトの生命現象 2編 1章:材料とその再利用 2章:衣料と食品	社会的視点 社会的視点 個人的視点	A3 実社会から学びを得る 実社会において科学が活用されている製品について知ることができる。	B3 実社会の問いを生む 実社会にある科学に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。	C3 社会貢献のデザイン 持続可能な社会に向けて、学びを活用できる作品を作り、広めることができる。				
	3編 光や熱の科学 4編 宇宙や地球の科学	3編 1章:光の性質とその利用 2章:熱の性質とその利用 4編 1章:太陽と地球 2章:自然景観と自然災害		A2 本物の素材から学びを得る 日常の事象から物質との関連を発見し、課題を解決することができる。	B2 対話から問いを生む 協働学習において新たな問いや気づきを見出し、解決に向けて探究することができる。	C2 学外に向けて発表 学びの成果を学校外の誰かに発信できる。				
	5編 課題研究	自由テーマ研究		A1 教科書から学びを得る 理科の4分野についての本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。また正しい実験技能を身に着けることができる。	B1 個人の問いを生む 実験手法や操作手順等、他者と意見が異なる際には相互理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。	C1 校内で発表をする 学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。				
2 学期										
3 学期										
				関わり Engage			探究 Investigate		行動 Act	
				評価方法			学びのリソース(教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		思考力・判断力・表現力	【50%】	●単元テスト ●KPシート ●ワークシート	●共同学習活動 ●レポート ●授業態度 ●提出物 ●スピーチ(ルーブリック評価)	<教材> 教科書・授業プリント ワークシート・iPad など		
・科学的思考力における疑問を持つ		・単元の内容について科学的な思考力による言語化						<ICT> ロイロノート など		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・学習プリント ・リフレクションカード		主体的に学習に取り組む態度		【50%】		<備考>		

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan (年間シラバス)						担当	田中常浩	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年α・β・探究		論理・表現Ⅱ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週		Big Dipper English Logic & Expression Ⅱ		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☐ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☐ 教科と社会を紐づける力	☐ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤 (活動内容と評価基準)						
1 学期	Part 1 Lesson 1~5	・時制を意識しながら、適切に表現できるよう練習する。 ・センテンスパターンを理解し、自分の行動や考えなどを表現できるように練習する。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン	
					ユニバーサルデザイン、ナッジ理論を研究し、独自のデザインを提供する。					
					A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表	
2 学期	Lesson 6~10	・不定詞慣用表現 ・完了不定詞・動名詞の完了形 ・知覚動詞、使役動詞 ・比較表現		他者・地域的視点	英語を用いながら社会的テーマを学ぶ。		社会的テーマを中心に対話し、相互に気づきや課題を見つけ出す。			
					A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする	
3 学期	Lesson 11~14	・比較・最上級の慣用表現 ・関係詞の基礎を学ぶ。関係代名詞(制限用法、非制限用法)、関係副詞を身につける。 ・関係詞の慣用表現を学び、それらを使って意見を述べたり、論理的に描写できるよう練習する。		個人的視点	基本的な英語表現をRepetition(繰り返し)を通して実際のコミュニケーションで使用できるようにする		身の回りのことや社会問題に触れ、自分のことばで考察できるようにする。		自分の意見をOREOで構成し、トークや対話を通して共有し相互評価することができる。	
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act	
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	・単元テスト ・音読テスト ・アウトプット型テスト (30%)		【教材】 ・Lesson video ・Factbook ・Practical Reading / Listening			
場面ごとにどんな表現が適切かを考え、Repetition(繰り返し)によって身につける。英語を英語のまま理解・解釈できるように練習する。		・自分のこれまでの活動や意見をまとめ表明する。 ・ライティング作業を通して、論理的な思考をアウトプットする。			思考力・判断力・表現力	・ライティングシート ・英作文 ・アウトプット型テスト (30%)		【ICT】 ・教科サイト、iPad など		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Loilo note(英語表現、単元テスト)		主体的に学習に取り組む態度		・レッスンビデオ視聴 ・プリント課題 ・Reflection (40%)				

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan (年間シラバス)					担当	齋木	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー							
高校2年α・β		英語コミュニケーションⅡ		自分をコントロールする Self-Control		他者につながる Communication		新しい価値を創造する Creation			
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機	
4時間/週		Power On II		☒ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☐ 協働性	☐ データサイエンス	☐ クリエイティブティ	未来志向	
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重	
				☒ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☐ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認	
単元				学びの羅針盤 (活動内容と評価基準)							
単元		単元のトピック		単元内の文法事項		社会		他者		個人的	
1学期		・ファッション ・自動販売機 ・アート		・SVOC (O・C) ・関係代名詞		A3 実社会から学びを得る グローバルな社会動向を知る (think global)		B3 実社会の問いを生む Q: 自分の周りには何があるのか?		C3 社会貢献のデザイン globalとlocalの対立的な構造と実際のそれぞれの性格から、その両立を自身の興味関心分野と絡めて模索する	
2学期		・ユニバーサルデザイン ・バイオミクラー ・心理・日常生活		・助動詞 ・受け身		A2 本物の素材から学びを得る グローバルな社会動向から見出せる日常的なアクションを考える (act local)		B2 対話から問いを生む Q: 自分の周りには誰がいて、何を考えているだろうか?		C2 学外に向けて発表	
3学期		・スポーツ ・エンタメ・映画演劇		・完了形		A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む Q: 自分は周囲や社会との関係のうえで、どう生活するべきか?		C1 校内で発表をする 社会における自分の立ち位置の地図をつくる (将来的な所属組織に関する調べ学習と発表など)	
						関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act	
				評価方法				学びのリソース (教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度		【教材】 ・Lesson video ・Special Guest ・Practical Reading / Listening 【ICT】 ・スタディサプリ、iPad など	
それぞれの社会トピックで登場する課題や面白さを自分の日常に近づける		・社会トピックと自身との関係を表現する語彙を身に着ける ・その関係のうえで、自分のアクションとしてできることを表現する		・単元テスト ・20Q TEST@Next Stage (40%) ・Out-put tests (20%) ・5Q DRILL@Next Stage ・Check Out TEST ・Other Performance Works (40%)							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Loilo note(単元テスト)									

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校 Unit Plan(年間シラバス)				担当 笹野・渡辺						
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年美術コース		美術Ⅱ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
時間数		使用教科書		☒	☒	☐	☐	☐	☒	未来志向
6時間/週		日本文教出版		☒	☒	☒	☒	☒	☒	他者尊重
				☒	☒	☒	☒	☐	☒	自己承認
				学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサン ・点描、コラーージュ ・竹紙ファイルデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの捉え方、見方を学ぶ ・点と面での表現の違いを知る。 ・公共物のデザインを考えることにより、社会におけるデザインの役割を知る。 ・企業とのコラボレーションにより、社会との繋がりを意識する。 	社会的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン				
				<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド活動を通して社会の課題に目を向ける ・現代美術鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・時事問題を通して美術の在り方を問う 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題を視覚化し伝えるデザインを考える 				
				A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を探る(立体) ・伝えるデザイン ・コンクールチャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土素材の特性を生かした表現方法を探り、素材の持つ表情を探る。 ・本を読み表紙をデザインすることにより、想像力を育み、伝えるデザインについて考察する。 ・コンクールに出品するためにコンセプトを明確にし制作する。 	社会的視点	<ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞、表現の多様性 ・モチーフとの対話、丁寧に観察し構造を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品を鑑賞する、また自分の作品を客観視することにより作品の質を高める ・ディスカッションし、意見を出し合うことにより、客観的に捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部コンクール ・新渡戸祭、スタフェス 				
				A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする				
				<ul style="list-style-type: none"> ・美素材研究、技法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・何を表現し伝えたいのか内観し、エスキースを重ねコンセプトを明確にする ・好きなことや興味関心の強いものについて、他者の意見を取り入れながらより魅力ある企画を考えることができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン型講評会 ・校内展示 				
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・油彩 ・○○をプロデュースする 	<ul style="list-style-type: none"> ・油彩の特徴を生かし大作を制作する。 ・自分が好きなことや関心があるものをプロデュースすることにより、企画力をつけ、社会との結びつきを考察する。 	個人的視点	<ul style="list-style-type: none"> ・美素材研究、技法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・何を表現し伝えたいのか内観し、エスキースを重ねコンセプトを明確にする ・好きなことや興味関心の強いものについて、他者の意見を取り入れながらより魅力ある企画を考えることができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン型講評会 ・校内展示 				
				関わり Engage	探究 Investigate	行動 Act				
				評価方法		学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ●コンセプト ●作品 ●ポートフォリオ ●プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ●リアクションペーパー ●提出物 ●出席、授業にのぞむ姿勢 	【教材】 ・授業資料 【ICT】 ・iPad、keynote、adobe 【備考】			
<ul style="list-style-type: none"> ・内在するものをいかに表現できるか ・課題に対して何を解決することができるか 	新渡戸祭、スタフェス、外部コンクールプロジェクト発表									
ドキュメント(記録化)の方法 ＜共有と振り返りの日常化＞				主体的に学習に取り組む態度						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)						担当 吉田、釜石、伊藤		
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年		[高校]体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週				☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	【A組】バドミントン 【B組】創作ダンス 【C組】陸上(ハードル・長距離)	【A組】バドミントンの基本的な知識、技能を身に付ける。 【B組】創作ダンスで表したいテーマにふさわしいイメージを仲間と表現できるようにする。 【C組】ハードル走の基本的な技術を身に付ける。また、長距離を走り切る技能を高めることができる。		社会・世界的視点			A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン	
				プロや大学生などのプレーの様子を動画等で学び、自分のプレーに生かすことができる。	スポーツにまつわる様々な課題について、興味や問いを持ち提案することができる。					
				他者・地域的視点			A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表	
2 学期	【A組】陸上(ハードル・長距離) 【B組】バドミントン 【C組】創作ダンス	【A組】ハードル走の基本的な技術を身に付ける。また、長距離を走り切る技能を高めることができる。 【B組】バドミントンの基本的な知識、技能を身に付ける。 【C組】創作ダンスで表したいテーマにふさわしいイメージを仲間と表現できるようにする。		友達のプレーから良い点・悪い点をみつけ、自分のプレーに生かすことができる。	自他のプレーについて課題を見つけ、技能を高めるためのアドバイスをすることができる。					
				個人的視点			A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする	
3 学期	【A組】創作ダンス 【B組】陸上(ハードル・長距離) 【C組】バドミントン	【A組】創作ダンスで表したいテーマにふさわしいイメージを仲間と表現できるようにする。 【B組】ハードル走の基本的な技術を身に付ける。また、長距離を走り切る技能を高めることができる。 【C組】バドミントンの基本的な知識、技能を身に付ける。		基本ルール・技術について、教科書から学ぶことができる。	自分のプレーについて課題を見つけ、技能を高めることができる。	試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。				
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
・生涯を通してスポーツとどう関わることができるか ・自他の課題解決のためにどう行動するか		・試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。		知識・技能	●技能・筆記テスト(50%) ●授業参加度(20%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。	●アウトプット型テスト(30%)	【教具】 ・体育用具	【ICT】 ・iPad ・ロイロノート ・クラスルーム	【備考】	
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノートなど		主体的に学習に取り組む態度						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)						担当	釜石、伊藤	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年		[高校]体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
1時間/週		新高等保健体育		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☒ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャルティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙 飲酒 薬物乱用 精神疾患 	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙、飲酒、薬物乱用による健康への影響について理解し、健康被害の防止に必要な個人や社会に対する対策について理解する。 精神疾患の特徴や症状について理解し、その予防や早期発見、治療、支援などの対応について理解する。 		社会・世界的視点		A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン		
				<ul style="list-style-type: none"> 社会で起きている問題や課題の現実を知り、自分の考えを持つことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会で起きている問題や課題の解決方法を仲間と共に考えて、見つけ、発表することができる。 				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 食品安全 保健制度 医療制度 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性と健康被害の関係について理解し、行政や製造・生産者、消費者の役割について理解する。 保健制度や医療制度の仕組みや役割について理解し、健康の保持増進に適切な活用方法について理解する。 		他者・地域的視点		A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表		
				<ul style="list-style-type: none"> 教科書やプリントからの知識と社会で起きているものを結び付けて考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> アウトプット型テストや授業内で様々な意見があること知り、互いの意見を尊重することができる。 				
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全 応急手当 心肺蘇生 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の要因や現状について理解し、事故防止に必要な取り組みについて理解する。 応急手当や心肺蘇生の意義や方法について理解することができる。 								
				<ul style="list-style-type: none"> 教科書やプリントから基礎知識を学習し、内容が理解できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書やプリントからの情報をもとに自分の考えを表現することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> アウトプット型テストの他に校内でポスターやスライドを発表することができる。 		
関わり Engage			探究 Investigate							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
将来、自らの健康のためにどのように生活するか。		薬物乱用防止や食品安全に関する啓発ポスターを作成する。		知識・技能	知識技能(40%) 思考判断表現(30%) 主体的な態度(30%)	●単元テスト(40%) ●アウトプット型テスト(30%) ●スライド作成・提出物(20%) ●授業態度(10%)	【教材】 ・教科書、プリント、避妊具、婦人体温計など			
				思考力・判断力・表現力	アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。	【ICT】 ・クラスルーム、ロイロノート、keynote				
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノート、クラスルーム		主体的に学習に取り組む態度	【備考】					

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)							担当	戸叶
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高2フードデザインコース		調理B		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週		教育図書 フードデザインほか		☒ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティブティ	未来志向
☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャルティ	☐ 批判的思考	☐ 論理的表現力	他者尊重				
☐ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認				
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	・季節の手仕事 ・味噌仕込み ・「食」の社会課題 ・和菓子作り ・高大連携授業	・味噌仕込みや梅作業など日本古来の季節の手仕事の歴史を学びながら実践する ・季節の和菓子を作る ・短大との連携授業を行う		社会的視点 世界的視点 他者・地域的視点 個人的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン			
	・魚の三枚おろし ・和菓子作り ・「食」の社会課題	・魚の三枚おろしができるようになる ・季節の和菓子を作る ・食に関するニュースを調べて発表する			A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表			
	・魚の三枚おろし ・和菓子作り ・「食」のレポート作成	・魚の三枚おろしができるようになる ・季節の和菓子を作る ・マイプロジェクトのレポートを作成する			A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする			
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act		
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト ●出欠 ●身だしなみ		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況		【教材】 教科書、プリント、iPad	
「和食」とは何か?		「和食とは何か」について、自分の意見をまとめて発表することができる		思考力・判断力・表現力					【ICT】 ・教科サイト	
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・ドキュメント		主体的に学習に取り組む態度					【備考】 必要に応じてWeb動画、Webソフトを活用	

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)							担当	黒岩
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年フードコース		調理		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週		和食検定(入門編)		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向
☒ 可能性発見	☐ 自己修正	☐ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルティ	☐ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重				
☒ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☐ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認				
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 和食文化の成り立ち 和食の基本食材と季節の食材(春・夏) 	<ul style="list-style-type: none"> 和食文化の成り立ちを知り、基本的な知識を身につける。 炊飯と出汁の基本知識を学ぶ。季節に応じた食材の知識、扱い方を理解する。 	世界的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン				
			社会的視点			和食文化についての理解を深めることで世界文化遺産に登録された和食の成り立ちや独自性や良さを他の人に説明することができる。				
			地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 和食の基本的な技能とおもてなしを学ぶ。 郷土料理を学ぶ。季節の食材(秋・冬) 	<ul style="list-style-type: none"> 和食の基本技能を理解する。季節に応じた食材の知識を身につける。 日本各地の特産、特色、郷土料理について学び、まとめたものを発表する。 	他者視点	日常的に口にして和食についての知識を改めて学ぶことで正しい知識を身につけ、説明することができる。	郷土料理についてまとめ、発表する課題の過程において他の人のまとめかた、表現の仕方を共有し、各自の発表をより良いものにする。	2月の和食検定試験に向けて知識の習得に努め、結果を出すことができる。				
			個人的視点	A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする				
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 和食器を学ぶ。和食の現在と未来についての課題を学ぶ。 和食検定対策。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の学びをもとに検定試験問題の例題に取り組み、検定試験に合格できる力を身につける。 年間を通して学んできた和食文化について自分なりに表現発表することができる。 	個人視点	基本事項を理解し、知識として身につけることによって、和食検定試験問題を解くことができる。	和食についての知識を改めて学ぶことで普段の食生活、食文化について自ら考えを深めようとする。	郷土料理について各自でまとめたものを作成し、相互評価を行う。				
			関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		評価方法			学びのリソース(教材・ICT)			
和食文化とはどういう文化なのか。		1学期に学んだ基本的な和食の知識をもとに、2学期に各自担当の地方料理について調べたものをまとめてクイズで発表し、共有することができる。		知識・技能	単元テスト(40%)郷土料理まとめ発表(40%)出欠、授業課題の提出、内容	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動 相互評価 	和食検定(入門)・プリント・教科サイト			
				思考力・判断力・表現力						
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		ロイノート・授業プリント		主体的に学習に取り組む態度						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan (年間シラバス)						担当	黒岩	
学年/コース		教科[中学]もしくは科目 [高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年フードコース		調理A		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
時間数		使用教科書		☒	☒	☒	☒	☐	☒	未来志向
2時間/週				☒	☒	☒	☐	☐	☐	他者尊重
				☒	☒	☒	☐	☐	☐	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤 (活動内容と評価基準)						
1 学期	・出汁の基本 ・炊飯の基本	・一番だし、炊飯の仕方を身につける。 ・一番だしをもとに基本的な汁物の作り方を学ぶ。旬(春・夏)の食材の知識、処理の仕方の理解を深める。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン	
					実習での体験をもとに社会においても自ら書籍、商品等に関心を持って触れようと努めることができる。					
					A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表	
2 学期	出汁の基本 其他の出汁の取り方 炊飯 (旬を活かした) 郷土料理	・旬の食材(秋・冬)の知識、技法を学ぶ。一番だし以外の出汁の取り方を学ぶ。出汁の取り方と炊飯の仕方を教えることができる。郷土の料理と食材を学ぶ。和食の調理技法を学ぶ。		地域的視点 他者	実習で扱う食材に向き合い、先入観にとらわれず、知識と扱い方を見つめることができる。		円滑な実習のために役割分担を行い、協働することができる。			
					A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする	
					各実習で必要とされる和食の基本技術や知識を理解しようと努めることができる		各実習後の振り返りの時間の中で自らの実習の姿勢を自己評価することができる。実習での知識を調理(和食検定)の学びにつなげることができる。		学習成果をp0売れ全セッションおよび相互評価することができる。	
3 学期	・出汁を活かした1品 ・郷土料理	・飯物、汁物以外に1品作成することができる。 ・郷土の料理と食材を学ぶ。		個人的視点	関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act	
					各実習で必要とされる和食の基本技術や知識を理解しようと努めることができる		各実習後の振り返りの時間の中で自らの実習の姿勢を自己評価することができる。実習での知識を調理(和食検定)の学びにつなげることができる。		学習成果をp0売れ全セッションおよび相互評価することができる。	
					A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする	
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●実技試験(40%) ●振り返りシート(ロイロノート)		●出席・提出物・身だしなみ・実習への取り組み		【教材】 ・和食検定試験(入門)	
和食に基本である出汁を引くこと、炊飯の技術をメインに和食の調理技術と知識を身につける		実技試験で求められる小学生に味噌汁作成、炊飯の指導をする。							【ICT】	
ドキュメント(記録化)の方法 ＜共有と振り返りの日常化＞ Head		ロイロノートによる授業の振り返り、授業プリント		主体的に学習に取り組む態度				【備考】 ・実習プリント		

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校		Unit Plan(年間シラバス)							担当	村上
学年/コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー						
高校2年全コース		家庭基礎		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation		
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機
2時間/週		家庭基礎 開隆堂		☒ 課題発見	☐ 戦略的学習力	☐ 言語スキル	☐ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向
				☒ 可能性発見	☐ 自己修正	☐ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャリティ	☐ 批判的思考	☐ 論理的表現力	他者尊重
				☐ パーソナライズな学び	☐ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を紐づける力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)						
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の自立 ・家族・家庭 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と生活課題 ・将来を見通しこれからを生きる ・自分が拓く人生 ・個人・家族と地域・社会 ・家族と法律 ・持続可能な家庭生活 	社会的視点	A3 実社会から学びを得る	B3 実社会の問いを生む	C3 社会貢献のデザイン				
			他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る	B2 対話から問いを生む	C2 学外に向けて発表				
			個人的視点	A1 教科書から学びを得る	B1 個人の問いを生む	C1 校内で発表をする				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の生活と健康 ・食生活と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活と健康 ・衣生活と健康 ・被服実習 	経済活動を行うことで社会の一員としての責任と影響を理解する。18歳から成人になることのできる契約や注意点を知り、消費者の意識を持つ。		被服実習を通して手縫いの基礎を理解する。					
			これまでの生活を支えてきた家族・家庭と自らが支える立場になっていくことを理解する。		高校生は将来の自立に繋がる青年期にあたる。また共生して協力して生きることが必要になる。これらを踏まえて将来の生活設計に繋がることを理解する。					
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活と持続可能な社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を支える経済 ・消費行動と意思決定 	関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
			評価方法							学びの資源(教材・ICT)
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●学習ノートと配布プリントの提出	●被服実習作品提出	【教材】・学習ノート ・君とみらいのライフプラン(冊子) 【ICT】・教材サイト			
高校生は将来の自立に繋がる青年期		グループワーク、発表、作品の提出								思考力・判断力・表現力
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head				主体的に学習に取り組む態度						